

地域安全学会論文奨励賞受賞者一覧

【2019 年度】

- ・ 田村 将太（広島大学） 「三原市本郷都市計画区域における平成 30 年 7 月豪雨の浸水エリアの特徴 –浸水想定区域および宅地開発の変遷との関連に着目して–」
- ・ 藤本 慎也（同志社大学） 「災害時の防護意思決定構造の理論モデル化とその実証的検討：大分県 3 市における土砂災害に関する社会調査データへの構造方程式モデリングの適用」

【平成 30 年度】

- ・ 塩崎由人（東京大学） 「都市システムの自然災害に対する受容力の構造の解明と制御の可能性」
- ・ 辻岡綾（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター）「災害対応コンピテンシー・プロファイル検査紙による自治体職員向け災害対策専門研修事業のインパクト評価」

【平成 29 年度】

- ・ 小林大吉（東京消防庁） 「VR（仮想現実）を用いた地震火災時の市街地延焼からの避難行動特性」
- ・ 野貴泰（警視庁）「犯罪多発地点の予測に基づく防犯パトロール経路に関する提案」
- ・ 中林啓修（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター）「退職自衛官の自治体防災関係部局への在職状況と課題 本人および自治体防災関係部局への郵送質問紙調査の分析を通して」

【平成 28 年度】

- ・ 川見文紀（同志社大学） 「リスク回避に影響を及ぼす防災リテラシーとハザードリスク及び人的・物的被害理解とのノンリニアな交互作用に関する研究：2015 年兵庫県県民防災意識調査の結果をもとに」
- ・ 渋谷孝行（東京消防庁震災対策課） 「延焼クラスタを考慮した地震火災時における避難危険性評価に関する研究」
- ・ 田中皓介（筑波大学） 「既往研究成果の系統的レビューに基づく大雨災害時の住民避難の阻害要因の体系的整理」
- ・ 永田俊光（宇都宮气象台） 「火山災害から「生きる力」を高めるための火山防災教育プログラムの開発」

【平成 27 年度】

- ・ 菅野拓（人と防災未来センター） 「東日本大震災の仮設住宅入居者の社会経済状況の変化と災害法制の適合性の検討–被災 1・3 年後の仙台市みなし仮設住宅入居世帯調査の比較から–」

・鈴木進吾（防災科学技術研究所） 「WebGIS サービスの連携による簡易型地震災害想定 Web アプリケーションの開発」

【平成 26 年度】

・土屋依子（明治大学） 「被災者の復興感からみた東日本大震災の生活復興過程—大船渡・気仙沼・新地の三ヵ年の被災者調査から—」

【平成 25 年度】

・山口裕敏（筑波大学） 「災害時自治体間援助の全国的実態とその特徴—東日本大震災を対象に—」

・小林朋美（東京ガス） 「道路網 GIS データに基づく上水道管路の分布推定」

【平成 24 年度】

・阪本真由美（人と防災未来センター） 「広域災害における自治体間の応援調整に関する研究—東日本大震災の経験より—」

【平成 23 年度】

・陳海立（京都大学） 「生活機能に基づく「基礎生活圈」の抽出手法の開発—紀伊半島、東日本大震災の被災地域を事例として—」

【平成 22 年度】

・鍵屋一（板橋区役所） 「特別養護老人ホームにおける事業継続計画（BCP）のガイドライン作成に関する基礎的研究」

・下野大樹（中央大学） 「首都圏の鉄道ネットワークにおける早期地震警報システムによる減災効果の検討」

・田中正人（都市調査計画事務所） 「集団移転による被災集落の分割実態とその影響—新潟県長岡市西谷地区の事例を通して—」

【平成 21 年度】

・コマファイ・ニコール（同志社大学） 「神戸市兵庫区における障害者の災害時要援護度マッピングの実施研究—脆弱性の「人—環境相互作用モデル」に基づいて」

・山下涼（大阪市） 「事業継続計画策定に向けた業務分析結果を用いた危機対応マニュアルの階層化及び人的資源分析に関する研究-大阪市水道局における検証を通じて-

・東田光裕（NTT 西日本） 「QR コードを利用した位置情報取得システムの開発」

【平成 20 年度】

・廣井悠（東京大学） 「対策間の相互作用を考慮した防災対策行動予測モデルの提案」

・井ノ口宗成（新潟大学） 「被災者基本台帳に基づいた一元的な被災者生活再建支援の実現—2007 年新潟県中越沖地震災害における“柏崎市被災者生活再建支援台帳システム”の構築—」

【平成 19 年度】

・覺知昇一（首都大学東京） 「密集市街地の隅切り整備による建物に対する消防車両の接近可能性の改善効果」

- ・佐藤慶一（東京工業大学） 「首都直下地震後に利用可能な賃貸住宅空家の分布の把握」
- ・吉村晶子（防災科学技術研究所） 「日本における瓦礫救助医療訓練施設に求められる要件に関する研究」

【平成 18 年度】

- ・黒宮亜希子（吉備国際大学） 「阪神淡路大震災被災者の生活復興過程にみる 4 つのパターン—2001 年・2003 年・2005 年兵庫県生活復興パネル調査結果報告—」

【平成 17 年度】

- ・澤田雅浩（長岡造形大学） 「震災発生時における関連情報集約とその提供手法に関する研究—新潟県中越地震復旧・復興 GIS プロジェクトの取り組みを通じて—」
- ・田鍋憲一（筑波大学） 「南関東大震災を対象とした緊急消防援助隊の効果的な活用方策に関する研究」
- ・市古太郎（首都大学東京） 「震災復興まちづくり模擬訓練による地域協働型事前復興準備の可能性—新小岩地区における実践と参加者調査から—」

【平成 16 年度】

- ・丹原崇宏（筑波大学） 「大都市震災時における徒歩帰宅者の帰宅経路の混雑緩和に関する研究」
- ・浦川豪（京都大学） 「マルチハザード社会の安全・安心を守るための GIS の活用方策—Enterprise GIS を基盤とした Combat GIS」
- ・秦康範（人と防災未来センター） 「災害対応演習システムの開発」
- ・堀江啓（防災科学技術研究所） 「非専門家に対する建物被災判定訓練の効果検証」

【平成 15 年度】

- ・越山健治（人と防災未来センター） 「災害復興公営住宅居住者の復興感分析—2002 年兵庫県災害復興公営住宅団地コミュニティ調査報告—」
- ・佐藤翔輔（長岡高専） 「地震によるライフライン停止と住宅損傷を考慮した短期避難需要の発生予測—生活支障の計量評価を利用した震害波及過程の記載—」
- ・永松伸吾（人と防災未来センター） 「住宅被害の軽減策の推進と事後保障の充実～両立可能な制度の提案～」

【平成 14 年度】

- ・生田英輔（大阪市立大学） 「阪神・淡路大震災における重傷者発生世帯への調査に基づく死傷発生メカニズムの検討」
- ・亀野弘昭（東京消防庁） 「部隊運用を含めた震災消防活動のシミュレータの開発」
- ・吉村美保（東京大学） 「公的費用の軽減効果に着目した木造住宅耐震補強助成制度の評価」

【平成 13 年度】

- ・宇治田和（東京大学） 「木造密集市街地における地震時被害発生と住民の緊急行動のマクロシミュレータ(プロトタイプ)の開発」

- ・佐野和彦（ティージー情報ネットワーク） 「都市域における震災用防災マップに関する研究—東京特別区を対象として—」

【平成 12 年度】

- ・柄谷友香（京都大学） 「神戸市社会統計を利用した阪神・淡路大震災後の生活再建指標（RI）の提案」

【平成 11 年度】

- ・齋藤正俊（日本電気） 「火災延焼からみた木造密集市街地改善プログラムの評価手法とその適用性に関する研究」
- ・木村玲欧（京都大学） 「阪神・淡路大震災後の被災者の移動とすまいの決定に関する研究」
- ・高島正典（京都大学） 「広域地震災害における復旧・復興状況の時空間的な推移—阪神・淡路大震災を事例として—」